

# 平成 17 年度教師海外研修（派遣国：ベトナム）実践報告

千葉県市川市立幸小学校  
横田 礼名

タイトル：～知ろう！考えよう！世界の今～

実践教科：総合的な学習の時間「国際理解教育」（時間数：22 時間）

対象児童：6 年 3 組

対象人数：32 名



## カリキュラム案

### (1) 実践の目的

異文化を知ることが興味深いことである。今までに何回か地域に住む外国の方を学校にお招きして、お国の紹介をしていただいたり、遊びや料理を体験したりという授業実践をしたが、その度に子どもたちが目を輝かせて楽しく活動する姿が見られた。ただ、いつも実践後この活動をどう次につなげたらいいいのか、どうしたら子どもたちの「生きる力」になるのかという疑問も残った。

私は今年度の 8 月、JICA の教師海外派遣の一員としてベトナムを訪問する機会を得た。都市部、山岳部の学校の抱える問題を目の当たりにしたり、ベトナムでボランティア活動を生き生きと行っている日本人の方に会う貴重な経験をさせていただいた。そして、改めて今、日本の教育には、「世界の多様な文化を知り、理解し（受け入れ）、自分から何かを主体的に発信できる人材の育成」が必要とされることを強く感じた。

そこで、今回の学習では「世界について知ること」と「世界で起きている様々な問題についての解決策を自分なりに考えること」という 2 本の柱を中心に学習計画をたててみた。その「問題を考える」切り口として、私が実際に見聞きしてきたベトナムの事例を活用する。事例は子どもたちが身近なこととして捉えられるよう主に子どもに関することを取り上げた。ベトナムで起きている諸問題は、簡単に解決できないことはもちろんだが、子どもたちなりの視点で問題を捉え前向きな解決策を考えるという体験が、これから世界の中で生きていく地球市民に近づく小さな一歩になればと思う。

私の担当する 6 学年の児童はもうすぐ中学への進学を控えており、新しい生活への希望と、また反面、自分の将来について考えたり不安を感じたりする時期である。この小学校 6 年間の総まとめの時期に、今まで各教科で学習してきたこと、教科以外で学んできたことを活動に生かしてほしい、等身大の自分で世界の今を知り、それについて考えてほしいと考え、本単元を設定した。

### (2) 目標

- ベトナムについて話を聞き、異文化への興味を持つ。
- 世界の国や国際協力についてすすんで調べ、発表する。
- 世界で起きている問題を把握し、自分なりの考えを持つことができる。

(3) 授業の構成案（活動計画）（22 時間扱い）

時 限	世界について知る活動	世界について考える活動	教材・資料
2	<p>○JICAについて知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のベトナム派遣に伴い、JICAの活動について簡単に知る。また、ベトナムの子どもたちに日本の絵や折り紙のプレゼントなどの用意をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICAリーフレット</li> </ul>
3	<p>○ベトナムについて知ろう。</p> <p>『先生の見てきた、感じたベトナム』（教師のプレゼンテーションによる）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナムってどんな国</li> <li>・ベトナムクイズに挑戦しよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パワーポイント</li> <li>・ ベトナムで撮影した写真</li> <li>・ ベトナムの教科書、お菓子、工芸品など現地で調達した資料</li> </ul>
1 3		<p>○「新しい惑星への旅」（ユニセフ開発教育）を行い、権利、人権について考え、理解を深める。</p> <p>○世界の子どもたちの今を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NGOドイツ平和村の活動についてビデオを見て感じたことを話し合う。</li> <li>・ フォトランゲージから子どもたちが働いたり、家族を失っている現実を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの権利条約</li> <li>・ ドイツ平和村のビデオ</li> <li>・ ベトナムの人々の写真</li> <li>・ ベトナムワールドボックス</li> </ul>
10	<p>○世界について調べ、伝えあおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本と関係のある世界の国を1つ選び、テーマを絞って調べる。</li> <li>・ 日本が行っている国際協力活動について調べる。</li> <li>・ 方法を工夫しながら、調べてわかったことをクラスのみんに伝える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット</li> <li>・ 国を紹介する本</li> <li>・ パワーポイント等、子どもの作成した資料</li> </ul>
2	<p>○国際協力チームになって問題の解決方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際にベトナムで起きている子どもに関する問題を知り、国際協力チームになったつもりで解決方法を考える。</li> <li>・ 元青年海外協力隊の方からアドバイスを受ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発途上国の現状を知らせる資料（パワーポイント）</li> <li>・ ベトナム各訪問先諸機関の資料</li> <li>・ JICA国際協力出前講座</li> </ul>
1		<p>○学習の総まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで行ってきたことについて感じたことを話し合ったりワークシートにまとめる。</li> <li>・ 今の自分たちにできることはないか考える。</li> </ul>	

## 授業の展開

(1) 本時のテーマ「国際協力チームになって問題の解決方法を考えよう」

(2) 本時の目標

- 出された問題に対して自分なりに解決方法を考えることができる。
- グループで協力して話し合い、より良い解決方法を選ぶことができる。
- ゲストティーチャーの話聞き、国際協力について理解を深める。

ゲストティーチャー：千葉県国際協力推進員 大山美砂子さん  
 (青年海外協力隊としてアフリカ、マラウイに派遣、  
 平成 17 年度教師海外研修ベトナム同行者)

(3) 展開

時配	学習活動と内容	支援※と評価☆
10	○開発途上国の現状について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の世界の中で8割が途上国であること、子どもたちの基本的人権が守られていないことなどの現状を知る。</li> </ul>	※具体的な資料を提示したり、質問形式にするなどの方法を取り入れ、世界の現状を理解できるようにする。
5	○ベトナムの山岳地帯の子どもたちについて知り、課題をとらえる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな田園地帯にもかかわらず、40パーセントが栄養不良であり、対策がせまられていること。</li> <li>・乳幼児死亡率が高いこと。</li> </ul> <p>○今日の学習活動をとらえる。  <b>ベトナムの子どもたちを救おう！！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日、みなさんには「ベトナム・イエンバイ省の子どもを救おう！」プロジェクトを行う【チーム63】になってもらいます。具体的にどんな活動をおこなったら</li> <li>○子どもたちの栄養不足がへるか</li> <li>○生まれるときや、生まれてすぐ死んで</li> </ul>	※あらかじめ、4～5人のグループを作っておく。 ※他のテーマで、課題解決の方法を話し合う練習をしておく。
15	○課題について考え、話し合い、解決策を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに自分の考えを書く。</li> <li>・リーダーを中心に話し合う。</li> </ul> 	※ベトナムの現状を書いた紙を渡し、そこから具体的な方法を考えられるようにする。 ☆今まで調べたことなどを生かしながら自分なりの解決策を考えられているか。 ※それぞれのグループはゲストティーチャーの方、または教師に質問してもよいことにする。その際、質問は何を聞いているかはっきりわかるよう具体的にさせる。 ☆解決策に結びつくような具体的な質問ができているか。

15	<p>・グループごとにでた意見を発表する。</p> 	<p>☆グループで協力し、より良い解決策を選べているか。</p> <p>※なぜグループでその解決策を選んだか、理由を話すようにする。</p>
10	○グループの解決策について支援者からアドバイスをもらう。	
10	○支援者のアドバイスを聞いて思ったことを話し合う。	
20	<p>○実際の協力活動について元協力隊員の方からお話を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力活動に必要なこと</li> <li>・困難だったこと</li> <li>・国際協力の必要性</li> </ul>	<p>※ワークシートにメモをしながら聞くようにする。</p> <p>☆意欲的に聞いたり、質問したりしているか。</p>
5	<p>○今日の活動についての感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決において難しかったことは何か。</li> <li>・協力隊員の方のお話を伺ってどんなことを思ったか。</li> </ul>	<p>☆協力活動に必要なこと、難しさなどを自分たちの話し合いや協力隊員のお話から感じることはできたか。</p>

## 成果と課題

22 時間という長い時間数で「知る」「考える」という 2 本の柱で学習を進めてきた。いろいろな学習活動を行いながら、子どもたちは世界を身近に感じ、今起きている問題について考えることができるようになってきたと思う。

前半行った、国や国際協力についての調べ学習と発表では、実体験はできないものの、それぞれが工夫をしながら、わかったことを発表することができた。

その後行った、「開発途上国の子どもの栄養失調を減らすために何ができるか話し合う」という活動は 6 年生の児童にとっては難しい課題であった。しかし、子どもたちは今まで調べた知識などを生かし、自分たちなりに意欲的に話し合い、より良い解決策を見いだそうと努力していた。実際にグループから出された解決策は、

- ・栄養士を派遣し、バランスのとれた食事について教える。
- ・畜産農家の人を派遣し、家畜を繁殖させる技術を教える。
- ・医師を派遣し、病院を作るのは無理なので一件ずつ訪問して、健康状態をチェックする。
- ・助産婦さんを連れて行く。
- ・日本から野菜の種を持って行って栽培方法を教える。
- ・誰でも使える浄水器をつける。

など、かなり具体的で根拠もはっきりしているものが多かった。実際にベトナムイエンバイ省で NGO 「セーブ・ザ・チルドレン」が行っている活動もあった。ゲストティーチャーの方に自分たちの考えを評価していただけるということも、意欲を持ってた理由だったと思う。

また、ゲストティーチャーの方から、青年海外協力隊での体験談を伺ったことも子どもたちにとって、とても興味深い学習であった。

学習のまとめの時間に、「いつか青年海外協力隊や NGO の活動に参加して見たい人」と、聞いたところ、半数以上が手を挙げた。このことから、この学習活動を通して子どもたちが世界に、そして国際協力活動に目を向けることができたことがわかる。

課題は、この活動を通して芽生えた世界への興味、国際協力活動への関心を今後どのようにつなげていくかにもあると思う。また、頭の中だけで考える「遠い活動」ではなく、小さなことでも今の自分たちに何かできることはないのかを考えさせ、実践させていかなければならないと感じている。

## 資料

### 児童の学習カード

〔イエンバイ省の子どもたちのための  
解決策を考えた個人カードの一例〕

〔まとめの時間に書いた感想〕

**国際協力チーム 「チーム63」 活動計画表**  
(個人用)

Aグループ 名前 \_\_\_\_\_

※このチームの目標は \_\_\_\_\_

※そのためにどんな活動をするか  
① 田んぼを2回にする(家畜の糞)  
田んぼはたくさんあるが一部を2回にする。そこで農家の人に、糞が少なくて済む、たくさん上手にできる方法を教えてもらう。

② 病院を作る(患者)  
病院を作る。患者をよんで子供を看病に助けてもらう。正しいことを教えてもらう。

③ 学校をつくる  
何歳の子供にも習字が書ける、いろいろなメニュー(どうやって作るか)を教えてもらう。

※今まで学習した国際協力や中国のことについての資料を活用しよう！(写真を貼って！)  
※具体的に考えよう  
※たとえば○○をするためにこんな具体的な活動に挑戦して行って○○をしてみよう...

○学習を通して思った事  
私達の知らない所で色々な事件が起きていてそれと同じ日本人が  
行っているのを見て私も何かできる月と思いました。  
今は資金が足りないけどそれも協力の一つだし前  
よりも近くと近づくように助けてあげたいと思いました。だから  
もと楽しんでいけるいかなる力になりたいです。それで皆、  
幸せにくらばたらいいねーと思いました。

○自分もやりたいと思った事  
私達の出した意見の少くともは人にくらせるほどと実現  
たいです。それと自分の差がなくなるとみんなが  
先進国に。それが無理ならばせめて幸せにくらせ  
て、基本の技術などとしている国々をしたいと思います。

〔青年海外協力隊の方のお話を聞いた感想〕

青年海外協力隊の方のお話を  
うかがって

この前は6-3に来てくださって本当にありがとうございました。

この間の授業で開発途上国が世界全体の80%〜90%と聞いてびっくりしました。世界には苦しんでいる人がたくさんいるんだと思いました。大山さんの話を聞いてマラウイは生活していくのがとても大変なことがわかりました。エイズなどもやっけて平均的何れもとても知識いこともわかりました。むこうでの暮らしはとても大変だわんてすね。協力隊に入ろうと思いたきかけはなてすね。早くも将来はいいかと思いました。

青年海外協力隊の方のお話を  
うかがって

大山さんのお話をきいてぼくは、青年海外協力隊に入りたいと思いました。

全く知らない所で困っている人を助けるというのはとても勇気のいること。とても大変な仕事だと思いました。自分の得意な事を生かして人々を助けてあげる。自分の長所をいかして人を助ける。ということはすごいと思いました。

将来ぼくは、青年海外協力隊にはいって世界の困っている人々を助けたらいいな。来ていただいて本当にありがとうございました。

その他の活動【シン・チャオ！ベトナム】～ベトナム関連品の展示～

全校児童を対象に学校内の一室を使ってベトナム関連グッズの展示を行った。展示した品物は、青年海外協力協会からお借りしたベトナムワールドボックスに入っていたもの、私がベトナムで購入したりおみやげとしていただいたもの、撮影してきた写真などであった。

子どもたちが少しでもベトナムの様子を理解したり、興味を持つことができるように、品物や写真に説明をつけたり、クイズ用紙を配ったりした。

ベトナムの民族衣装アオザイを着た6年生児童が案内役となったり、遊べるコーナーを作ってベトナムの遊び道具ダカウを体験するなど、楽しい催しとなった。

